

事務事業マネジメントシート(平成27年度実施分)

事業名	中高生夢チャレンジ大学
事業開始年度	平成24年度
根拠法令	なし
行政計画上の位置づけ	なし
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 若者の社会的・職業的自立が課題となっており、中高生の体験や活動の場の充実について、議会や審議会等においても指摘を受けていた。

所管課名	子ども未来局	子ども部	総務企画課
基本	施策コード	主 7-5-1	再 1-8-4
分野別目標	創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している		
施策	チャレンジする若者や女性が活躍するまちづくり		
事業群	若者の体験・活動の場や機会づくり		
施策成果指標	・講座の満足度 ・自分には創造力があると気づいた生徒の割合		

【事業概要】

対 象	目 的
誰(何)を対象として行なうのか 中学生・高校生	対象をどのような状態にしたいのか 自分の可能性や創造力に気づき、自分の強みや個性を生かした職業や将来を考える。

27年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	☐	委託含む	☐	補助金含む	☒	負担金含む
参加者: 89名(中学生60名, 高校生29名)						
①開校式						
・自らの創造性に気づくワークショップを実施。						
②講座						
・9講座の中から2講座以上受講。						
・福岡で活躍する職業人から、人生観・職業観を直に学ぶ。						
③閉校式・交流会						
・未来の自分への誓いを立てる。						
・振り返りワーク。						
事業費 (千円)	年度		26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額	
	歳出合計		8,856	8,229	7,088	
	歳入	特定財源	1	1	0	
		一般財源	8,855	8,228	7,088	

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実 績		目 標	
		26年度	27年度	28年度	最終年度
活動の指標	参加人数	目標	150	150	32年度
		実績	92	89	
		達成率	61.3%	59.3%	100
		目標			年度
		実績			
		達成率			
(成果の指標 KPI)	講座の満足度	目標	100.0%	100.0%	32年度
		実績	98.9%	97.3%	
		達成率	100.0%	97.3%	100
	自分には創造力があると気づいた生徒の割合	目標	64.0%	65.0%	32年度
		実績	72.4%	95.3%	
		達成率	113.1%	146.6%	100

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標	①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)	大
	・夢チャレンジ大学の周知を図る。 (チラシ・市政だよりの配布、ホームページ・Facebook、新聞広告等) ・開校式、講座、閉校式の実施。	行政のコントロール要素
	②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)	小
	・多くの中高生が夢チャレンジ大学に参加し、様々なプログラムを受講。	
成果の指標	③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)	小
	・自分の創造性に気づき、自分に自信を持つ。 ・自分の将来を考える。 ・社会への参画意識、職業意識が培われる。 ・コミュニケーション能力、ネットワーク形成能力が向上。	
	④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)	大
	・子どもや若者が、目標に向かって様々なことにチャレンジし活躍する。 ・福岡の将来を担う若者ネットワークが構築され、都市の活力が向上。	外的な要因

事務事業マネジメントシート(平成27年度実施分)

事業名	子ども・若者活躍の場プロジェクト	官誅名	こども未来局	こども部	青少年健全育成課
事業開始年度	平成24年度	基本施策コード	主 1-8-4	再	
根拠法令	なし	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている		
行政計画上の位置づけ	なし	計画施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成		
		事業群	子ども・若者の健全育成の取組み		
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 福岡県の少年非行については、全国ワースト3位となっており、その非行少年の立ち直り支援の活動の場が求められている。また、現在、困難を抱える若者の相談窓口として市では、よかよかルームや若者相談窓口のほか、NPO等が行っている若者の相談窓口があるが、最終目的である就労にはなかなか至らない現状があったため。		施策成果指標 ・参加者の生活状況の改善		

事業概要

対 象	目 的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
・立ち直りを必要とする非行少年	困難を有する子ども・若者が活躍できる場の一つとして、まずは農業を体験する場や、栽培した野菜を販売する場を提供し、グループ活動を通して就労や更正に向けた第一歩を踏み出す機会を提供する。
・市内の困難を有する若者支援を行っている団体	

27年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	☒ 委託含む	☐ 補助金含む	☐ 負担金含む
① 参加者による農作業及び農作物の管理 ・実施時期 月4回程度(毎週水曜日 各団体毎に実施) ② 参加者が作付けから行った野菜を使用した販売会 ● 玉ねぎを使用した万能ソース販売会 ・実施場所 福岡市役所ふれあい広場北側緑地(小規模イベントスペース) ・実施時期 5月25日、6月1日 ● 西区まるごと博物館への出店 ・実施場所 西区姪浜中央公園 ・実施時期 9月27日 ③ 就労等に向けての勉強会 ● 就労に向けたワークショップ ・実施場所 市役所会議室 ・実施時期 6月 ● 就労等へ向けた継続的な学びの場(39ゼミ) ・実施場所 市内施設会議室 ・実施時期 11月より月に1回実施 ④ 団体間の情報共有及び交流のツールとして39 ふぁ〜む通信の発行 ・発行時期 10月			

事業費 (千円)	年度		26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額
	歳出合計		3,094	3,078	2,933
	歳入	特定財源	0	0	0
		一般財源	3,094	3,078	2,933

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実 績			目 標	
			26年度	27年度	28年度	最終年度
活動の指標	参加団体数	目標	5	6	7	31年度
		実績	5	6		10
		達成率	100.0%	100.0%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				
(成果の指標) (K P I)	参加者の生活状況の改善	目標	10	11	12人	31年度
		実績	10	11		14人
		達成率	100.0%	100.0%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標	①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか) 農業体験(作付け、収穫等) 参加者の交流会 収穫物及び加工品の販売会	行政のコントロール要素
	②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか) 集団の中で作業を行うことで、社会性や主体性を身につけることができる。	
成果の指標	③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか) 自分の居場所を見つけ、自己肯定感を持つことができる。	外的な要因
	④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか) 困難を抱える子ども・若者が就労や更正に向けた第一歩を踏み出すことができる。	

事務事業マネジメントシート(平成27年度実施分)

事業名	若者のぷらっとホームサポート事業	所管課名	子ども未来局	子ども部	青少年健全育成課
事業開始年度	平成24年度	基本	施策コード	主	1-8-4
根拠法令	なし	分野別目標	再		
行政計画上の位置づけ	新・福岡市子ども総合計画	施策			一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 困難を有する若者が気軽に立ち寄り、自由な時間を過ごす中で相互に相談しあうことのできるフリースペースをつくる。	事業群			自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成
		施策成果指標			子ども・若者の健全育成の取組み ・少年非行率の低下

【事業概要】

対 象	目 的
誰(何)を対象として行なうのか 非行や不登校傾向にある中高生を中心とした若者	対象をどのような状態にしたいのか 対象者の非行防止や不登校予防などを通じ、社会性や規範意識を育む環境をつくり、自立した社会人として成長する。

27年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	☒ 委託含む	☒ 補助金含む	☐ 負担金含む
○若者居場所の運営(子どもNPOセンター福岡へ運営委託) ・南区大橋にて毎週日曜日:計51回開催 のべ677名利用 ○実践団体や開設予定団体、市民を集めた交流会の開催 2月28日 九大橋サテライト 37名参加 ○開設・運営する団体に対するノウハウの提供 ○開設・運営する団体に対する財政支援 ・交付団体 5団体 ○事業の周知・広報			

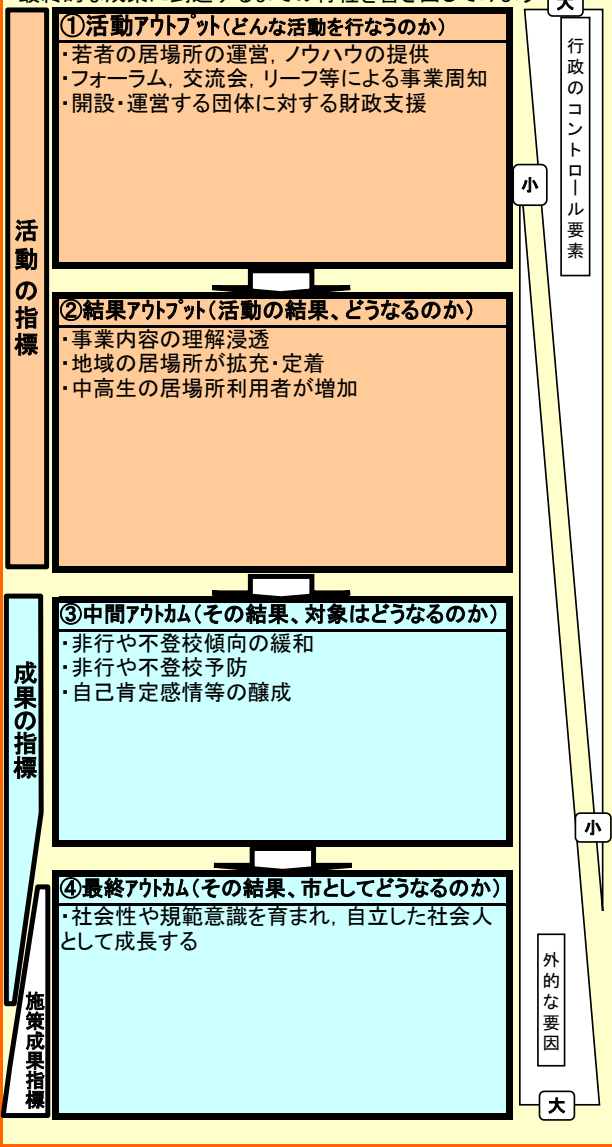
事業費 (千円)	年度	26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額	
	歳出合計	2,617	2,868	3,579	
	歳入	特定財源	0	0	0
		一般財源	2,617	2,868	3,579

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実 績			目 標	
		26年度	27年度	28年度	最終年度	
活動の指標	地域で活動する団体の数	目標	4	4	6	年度
		実績	5	6		6
		達成率	125.0%	150.0%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				
(成果の指標 K P I)	少年非行率の低下(%)	目標	10.0	9.0	7.3	年度
		実績	7.7	7.5		
		達成率	129.9%	120.0%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう



事務事業マネジメントシート(平成27年度実施分)

事業名	児童家庭支援センター	所管課名	子ども未来局	子ども部	子ども家庭課
事業開始年度	平成25年度	基本	施策コード	主 1-7-1	再
根拠法令	児童福祉法	分野別目標	施策	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
行政計画上の位置づけ		事業群	子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり		
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 近年の虐待相談の急増、子育てに悩む家庭や里親からの相談、休日・夜間の相談対応など、施設入所に至らない段階での専門的かつ柔軟な支援体制が求められている。		子育て環境満足度		

【事業概要】

対 象	目 的
誰(何)を対象として行なうのか 子育てに不安を感じている 家庭・里親	対象をどのような状態にしたいのか 虐待につながる過程での早めの相談と専門的 支援により、子育て不安を解消し、虐待の未然 防止と再発防止を強化する。

27年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	☒ 委託含む	☐ 補助金含む	☐ 負担金含む		
NPOへ委託を行い、以下の相談業務等を実施する。					
① 休日・夜間(トワイライト)の相談対応 平日17時00分から20時00分まで 土・日曜日・祝日...10時00分から17時00分まで ※毎週火曜日又は水曜日、年末年始は休業					
② ファミリーホームや里親への支援					
③ 児童相談所からの委託による指導					
④ 一時保護の実施					
⑤ 区からの求めに応ずる事業					
事業費 (千円)	年度	26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額	
	歳出合計	12,660	22,555	25,658	
	歳入	特定財源	6,330	12,860	12,829
		一般財源	6,330	9,695	12,829

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実 績		目 標	
		26年度	27年度	28年度	最終年度
活動の指標	設置箇所数	目標	1	1	年度
		実績	1	2	
		達成率	100.0%	200.0%	
		目標			年度
		実績			
		達成率			
(成果の指標)	子育て環境満足度	目標	65.0%	65.0%	34 年度
		実績	60.4%	64.3%	
		達成率	92.9%	98.9%	70.0%
		目標			年度
		実績			
		達成率			

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標	①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)	大
	・子ども家庭支援センターの運営 平成25年度5月～ 1箇所運営中 ・窓口での相談対応 ・ファミリーホーム・里親研修の実施 ・子ども家庭支援センターの増設 平成27年度中 2箇所目を設置予定	小
	②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)	
	・子育て家庭が相談する。 ・ファミリーホーム・里親が研修へ参加する。 ・2箇所目増設により、サービス範囲を拡大し、利用者を増加	
成果の指標	③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)	小
	・子育てに悩む家庭の多くが相談により問題解消、または適切な機関で支援を受ける。 ・虐待通告件数が減少する。 ・ファミリーホームや里親のスキルアップ	
	④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)	大
	虐待がゼロになる。	外的な要因

事務事業マネジメントシート(平成27年度実施分)

事業名	特別支援学校放課後等支援事業	所管課名	こども未来局	こども部	こども発達支援課
事業開始年度	18	基本	施策コード	主 1-7-3	再
根拠法令	特になし	基本	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
行政計画上の位置づけ	特になし	計	施策	子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり	
		画	事業群	地域における子育ての支援	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 一般の学校に放課後の児童預かり先(留守家庭子ども会)があるのと 同様に、特別支援学校の児童・生徒には放課後の預かり先がほしい との強い要望や議会請願があった。		施策 成果 指標	・子育て環境満足度 ・地域での支え合いにより、子育て家庭や高齢者が暮らしやすいまちだと感じる市民の割合	

事業概要

対 象	目 的
誰(何)を対象として行なうのか 特別支援学校に通う児童・生徒とその保護者	対象をどのような状態にしたいのか ・児童・生徒に放課後等の活動の場を提供。 ・保護者に就労やレスパイト(一時的休息)の時間を提供。

27年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	☒ 委託含む	☐ 補助金含む	☐ 負担金含む
------	--	--------------------------------	--------------------------------

・放課後や土曜・長期休暇中、知的障がい特別支援学校(5箇所)、肢体不自由特別支援学校(2箇所)、病弱特別支援学校(1箇所)で実施する。事業内容については下記のとおり。

<実施日時> 平日: 学校終了後から午後6時30分まで
土曜・長期休暇中: 午前8時から午後6時30分まで

<定員> 9名～15名(知的障がい), 10名(肢体不自由)

<料金> 平日500円(今津は620円)
午前または午後^{のみ}の利用500円(今津は620円)
午前に引き続き午後^も利用1,000円(今津は1,240円)

<送迎> 原則保護者。

今津特別支援学校においては、事業終了後の送迎を実施。

事業費 (千円)	年度		26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額
	歳出合計		159,348	150,555	147,151
	歳入	特定財源	74,563	115,427	112,396
		一般財源	84,785	35,128	34,755

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実 績			目 標	
			26年度	27年度	28年度	最終年度
活動の指標	放課後等支援事業実施学校数	目標	7	7	7	年度
		実績	7	7		
		達成率	100.0%	100.0%		
	調整数	目標	1,191	-	-	年度
		実績	416	-		
		達成率	34.9%	-		
(成果の指標)	子育て環境満足度	目標	65.0%	65.0%	65.0%	34 年度
		実績	60.4%	64.3%		70.0%
		達成率	92.9%	98.9%		
	地域での支え合いにより、子育て家庭や高齢者が暮らしやすいまちだと感じる市民の割合	目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

政策目標

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

- ・安全かつ安心できる環境のもと児童・生徒の預かりを行う

活動の指標

中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

- ・児童・生徒が放課後等の活動の場を得る。
- ・保護者が、就労や休息の時間を得る。

成果の指標

最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

- ・障がい児の育成支援。
- ・障がい児の保護者の子育てがしやすくなる。

施策成果目標

行政のコントロール要素

小

中

大

外的な要因

事務事業マネジメントシート(平成27年度実施分)

事業名	発達障がい児放課後等支援事業	所管課名	こども未来局	こども部	こども発達支援課			
事業開始年度	平成24年度	基本	施策コード	主	1-7-3	再		
根拠法令	特になし	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている					
行政計画上の位置づけ	特になし	施策	子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり					
		事業群	地域における子育ての支援					
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 発達障がいのある児童でかつ通常学級や特別支援学級に通う児童は、集団適応への困難さを抱えており、放課後の居場所についても健全児と同じ環境では難しく、発達障がいの特性に配慮した放課後の居場所が必要のため。	施策成果指標	・子育て環境満足度 ・地域での支え合いにより、子育て家庭や高齢者が暮らしやすいまちだと感じる市民の割合					

対 象	目 的
誰(何)を対象として行なうのか 小・中学校の通常学級及び特別支援学級に通う発達障がい児で留守家庭子ども会を利用していない児童・生徒とその保護者	対象をどのような状態にしたいのか ・児童・生徒に放課後等の居場所を提供 ・保護者に就労や休息等の時間を提供

27年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか				
実施手法	☒ 委託含む	☐ 補助金含む	☐ 負担金含む	
・放課後や、土曜・長期休暇中の発達障がいがある児童・生徒の預かりを、2か所(だんらん:早良区城西、ばんびーの:博多区吉塚)で実施する。利用にあたって、発達障がい者支援センターでの面談を行う必要がある。事業内容詳細については下記のとおり。 <実施日時> 平日:学校終了後から午後7時まで 土曜・長期休暇中:午前8時30分から午後7時まで <定員> 5名 <料金> 平日620円 午前または午後利用620円 午前に引き続き午後利用1,240円 <送迎> 原則保護者。事業所近隣の小中学校に通われている方については、平日の学校から事業所までの迎えを実施。 ・事業者、発達障がい者支援センターとの情報交換の場として発達障がい児放課後等支援事業連絡会議を2か月に1回開催。				
事業費 (千円)	年度	26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額
	歳出合計	17,570	18,946	0
	歳入			
	特定財源	8,958	14,208	0
	一般財源	8,612	4,738	0

【活動・成果指標の達成度】				
区分	指標の内容	実 績		目 標
活動の指標	実施箇所数	26年度	27年度	28年度
		2	2	拡大実施
		実績	2	
	延べ利用者数	達成率	100.0%	100.0%
		目標		
		実績	1,463	2,060
(成果の指標)	子育て環境満足度(%)	達成率	65.0%	65.0%
		目標	60.4%	64.3%
		実績	92.9%	98.9%
	地域での支え合いにより、子育て家庭や高齢者が暮らしやすいまちだと感じる市民の割合	達成率		
		目標		
		実績		

活動の指標	実施箇所数	目標	2	2	拡大実施	年度
		実績	2	2		
		達成率	100.0%	100.0%		
	延べ利用者数	目標			拡大実施	年度
		実績	1,463	2,060		
		達成率				
(成果の指標)	子育て環境満足度(%)	目標	65.0%	65.0%		34 年度
		実績	60.4%	64.3%		70.0%
		達成率	92.9%	98.9%		
	地域での支え合いにより、子育て家庭や高齢者が暮らしやすいまちだと感じる市民の割合	目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

成果の指標

行政のコントロール要素

外的な要因

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

大

小

大

・市内2か所で事業実施。
・連絡会議を行い、課題等の協議。
・関係機関、保護者への周知

・本事業を利用する児童、生徒が増加する。

・発達障がい児の放課後の居場所ができる。
・保護者が就労しやすくなる
・保護者が休息の時間が取れる。

・障がい児の育成支援
・発達障がい児の保護者の子育てがしやすくなる。

事務事業マネジメントシート(平成27年度実施分)

事業名	ミニふくおか
事業開始年度	平成24年度
根拠法令	なし
行政計画上の位置づけ	なし
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に ○様々な体験を通して、自己を形成していく機会が少なくなってきた。 ○コミュニケーション能力や自立心、主体性、協調性などが低下している。 ○子どもたちを社会全体で育む意識が希薄になっている。

所管課名	子ども未来局	子ども部	放課後子ども育成課
基本	施策コード	主	1-8-4
本	分野別目標	再	
計	施策		一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている
画	事業群		自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成
			子ども・若者の健全育成の取組み
施策成果指標	○地域の遊び場や体験学習の場への評価(地域の小中学生はさまざまな遊びや体験学習をする場や機会に恵まれていると感じる、高校生以下の子をもつ保護者の割合)(H28:60%)		

【事業概要】

対 象	目 的
誰(何)を対象として行なうのか 小学校3年生～高校3年生	対象をどのような状態にしたいのか 仮想のまちづくりを遊びながら体験する事により、 ・子どもの創造性、主体性、自覚性を育む。 ・子どものコミュニケーション能力を育む。 ・まちづくりへの参画意識を醸成する。 ・仕事体験を通じ、仕事や仕事の成り立ちへの興味を見出す。

27年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法

☐委託含む

☐補助金含む

☒負担金含む

○実行委員会形式にて、企画・運営を行う。

○子ども実行員会を設置し、10回のワークショップの中で、まちの仕組みやルール、配置、参加する子どもの役割を決定。

○ボランティアスタッフが、子どもたちをサポート。

○会場内は、子どもたちを中心に運営。

○企業・団体から、協賛金・物資・人材の提供を受けて実施。

【開催概要】

●開催日:27年8月25日(火)～27日(木)11～16時

※8/25(火)は台風のため中止

●会場:九電記念体育館

●参加者数:延べ1,052人(開催2日間)

●協賛企業・団体数:41社・団体

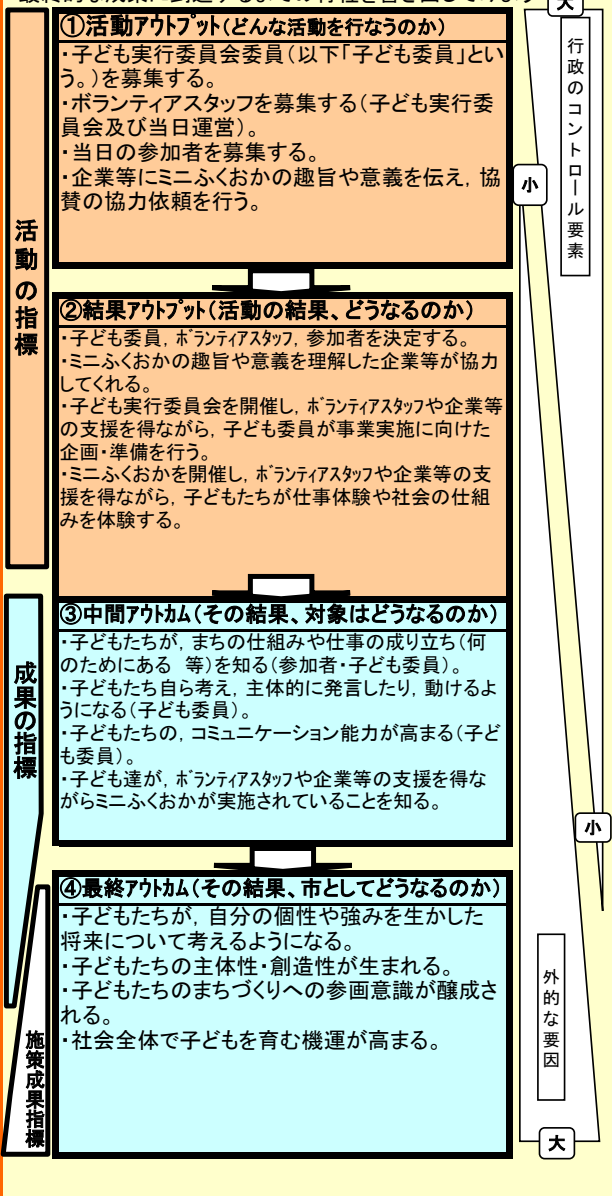
事業費 (千円)	年度	26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額	
	歳出合計	14,587	14,300	14,300	
	歳入	特定財源	0	0	0
		一般財源	14,587	14,300	14,300

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実 績		目 標	
		26年度	27年度	28年度	最終年度
活動の指標	協賛・協力企業・団体の件数	目標			年度
		実績	39	41	前年より増加
		達成率			
	ミニふくおか当日の参加者数	目標	1,500	1,500	年度
		実績	1,704	1,052	1500
		達成率	113.6%	70.1%	
(成果の指標)	《参加者・子ども委員》まちの仕組みや仕事の成り立ちを理解したという参加者等の割合	目標	-	-	年度
		実績	-	-	100
		達成率	-	-	
	《子ども委員》主体的に発言したり、活動ができるようになったという子ども委員の割合	目標	-	-	年度
		実績	-	-	100
		達成率	-	-	

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう



事務事業マネジメントシート(平成27年度実施分)

事業名	放課後等の遊び場づくり事業(通称:わいわい広場)
事業開始年度	平成15年度
根拠法令	なし
行政計画上の位置づけ	なし
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に ○子どもの「遊び」には、人とのつきあい方がわかる、体力向上、思いやり深く我慢強くなる、自分に自信がつき好きになる、情緒不安定の解消などの効用がある。 ○しかしながら、現代の子どもを取り巻く環境は、3間(時間・空間・仲間)がない状況であり、地域における自由に遊べる場所が少なくなり、外遊びや集団遊びをする子どもが少なくなっている。 ○この様な遊びの衰退が、体力低下、キレやすい子や無気力な子などの増加につながっているとも言われていることから、自由に安心して大勢の仲間たちで遊ぶことができる場が求められている。

所管課名	子ども未来局	子ども部	放課後子ども育成課
基本計画	施策コード 主 1-8-4 再 分野別目標 一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている 施策 自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成 事業群 子ども・若者の健全育成の取り組み		
実施成果指標	○地域の遊び場や体験学習の場への評価(地域の小中学生はさまざまな遊びや体験学習をする場や機会に恵まれていると感じる、高校生以下の子をもつ保護者の割合)(H28:60%)		

【事業概要】

対 象	目 的
誰(何)を対象として行なうのか 小学校の児童	対象をどのような状態にしたいのか ○子どもたちが、自由に遊べる場を増やす。また、外遊びする時間や集団遊びする子どもを増やす。 ○子どもたちの体力やコミュニケーション力の向上、ストレス解消、自尊感情の醸成等が図られ、子どもたちが健やかに成長する。

27年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	☒ 委託含む ☐ 補助金含む ☐ 負担金含む
●校区運営委員会、民間事業者等に運営業務を委託し、助言等を行う運営協議会の設置や開催日の見守りに地域・保護者の協力を得て実施。 ①開催日:平日の週3日間程度 ②場所:校庭(一部体育館、校舎内特別教室等) ③実施校数:97校(27年度末現在) ④参加児童数(延べ):208,233人(27年3月末現在) ●事業の活性化を図るため、人材育成事業や普及・啓発活動を実施。 (1)プレイワーカー養成講座<入門・実践編> 講座5日間、修了者数34人。現場実習7日間、のべ12人参加。 (2)学生プレイワーカー育成事業 登録学生数43人。実習・支援日数(延べ)101日間。 (3)関係者(現場責任者・補助員・プレイワーカー)研修の実施 (4)わいわい広場の意義・遊びの効用の普及・啓発活動	

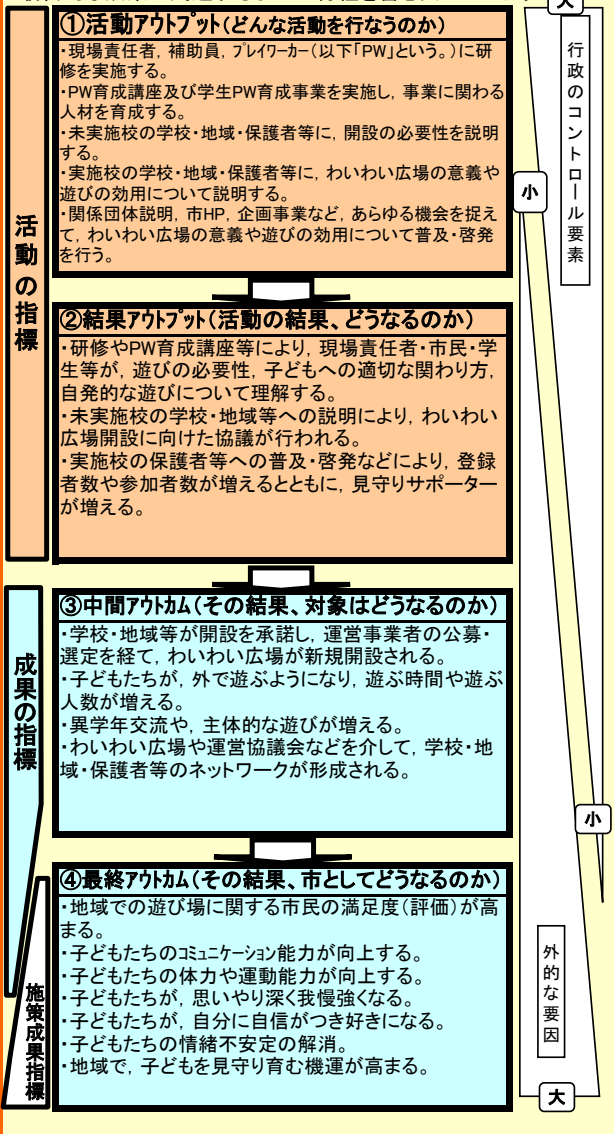
事業費(千円)	年度	26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額
歳出合計		216,037	259,337	290,486
歳入	特定財源	68,705	83,140	93,666
	一般財源	147,332	176,197	196,820

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実 績		目 標	
		26年度	27年度	28年度	最終年度
活動の指標	わいわい広場の登録者数	目標		前年より増加	年度
		実績	10,452		
		達成率			
	わいわい広場の参加者数	目標		前年より増加	年度
		実績	179,238		
		達成率	208,233		
(K P I) 成果の指標	わいわい広場の開設校数	目標	13	11	31年度 全校区展開(143)
		実績	12		
		達成率	92.3%		
	参加前と比較して外遊びするようになったと回答した保護者の割合	目標		目標値はアンケート調査に基づき新たに設定する	年度
		実績			
		達成率			

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう



事務事業マネジメントシート(平成27年度実施分)

事業名	留守家庭子ども会事業
事業開始年度	昭和41年度
根拠法令	児童福祉法 福岡市留守家庭子ども会事業の実施に関する条例
行政計画上の位置づけ	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 共働き世帯の増加等による学童保育ニーズの高まりを受け、仕事と子育ての両立支援と子どもの健全育成のため適切な遊びと生活の場を提供するために教育委員会が昭和41年度に2小学校で開設。以来、開設箇所を増やし、現在では20人以上の入会が見込める136小学校で開設している。

所管課名	子ども未来局	子ども部	放課後子ども育成課
基本	施策コード	主 1-7-3	再
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている		
施策	子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり		
事業群	地域における子育ての支援		
子育て環境満足度	H28: 65% (政策推進プラン 中間目標値)		

【事業概要】

対 象	目 的
誰(何)を対象として行なうのか 保護者が労働等のために 昼間家庭にいない児童	対象をどのような状態にしたいのか 入会要件のある児童を、学校敷地内の安全な 環境下で受け入れる。

27年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

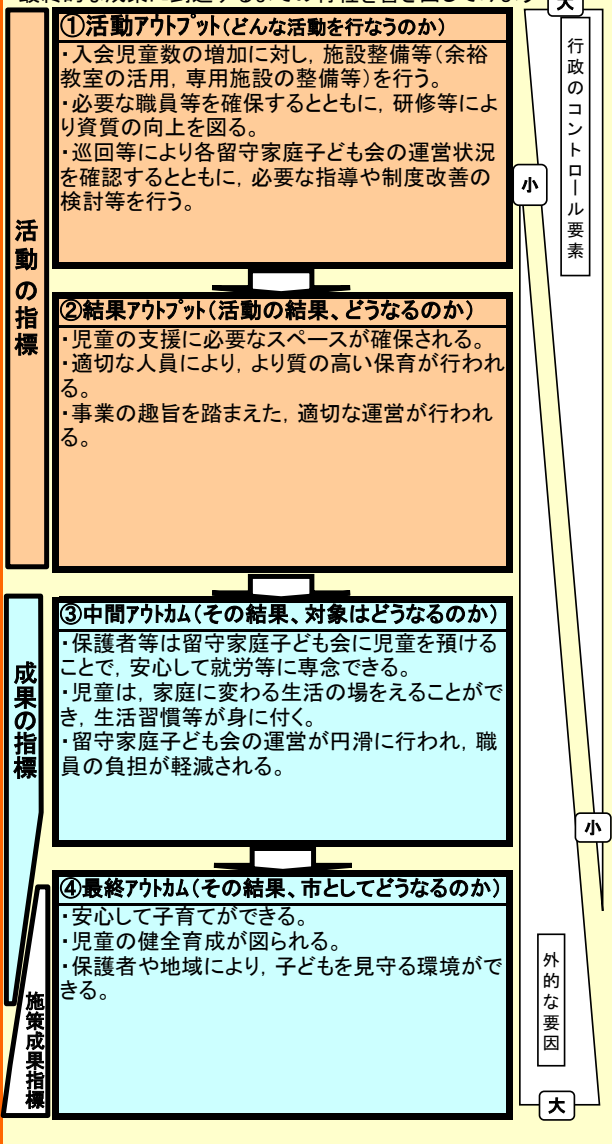
実施手法	☒ 委託含む	☐ 補助金含む	☐ 負担金含む
事業費	留守家庭子ども会の運営にあたっては、市から嘱託員等を派遣するとともに、保護者や校区関係者、学校からなる校区ごとの運営委員会に委託し、地域住民も補助支援員として運営に協力するなど、地域ぐるみで子どもを見守る体制となっている。 また、子ども子育て支援新制度を踏まえた制度の改善(支援単位の分割、職員の配置など)を行うとともに、研修等を実施し、職員等従事者の資質向上を図った。 さらに、狭あい化が見込まれる5校について、専用施設の増改築を行った。		
年度	26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額
歳出合計	2,198,464	2,494,261	3,231,755
歳入	特定財源 918,325	1,733,777	1,881,433
	一般財源 1,280,139	760,484	1,350,322

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実 績			目 標	
			26年度	27年度	28年度	最終年度
活動の指標	施設の整備件数	目標	4	5	5	年度
		実績	4	5		
		達成率	100.0%	100.0%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				
(成果の指標)	全ての対象児童を受入している施設数	目標	136	136	137	年度
		実績	136	136		
		達成率	100.0%	100.0%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう



事務事業マネジメントシート(平成27年度実施分)

事業名	子育て見守り訪問員派遣事業
事業開始年度	平成24年度
根拠法令	児童福祉法 児童虐待防止法
行政計画上の位置づけ	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 児童虐待防止のために、通告後48時間以内の児童の安全確認を求められており、特に職員の対応が困難な夜間、休日の安全確認体制を早急に整備する必要がある。

所管課名	子ども未来局	子ども総合相談センター	子ども緊急支援課
基本	施策コード	主 1-7-1	再
本	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
計	施策	子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり	
画	事業群	子どもの権利の尊重	
施策成果指標	子育て環境満足度		

【事業概要】

対 象	目 的
誰(何)を対象として行なうのか 児童虐待を受けている疑いがある0歳から18歳未満の児童及びその保護者	対象をどのような状態にしたいのか ○児童が心身共に安全な状態であることを確認する。 ○保護者を適切な相談機関に繋げる。

27年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	☒ 委託含む	☒ 補助金含む	☐ 負担金含む
夜間、休日に子ども総合相談センターに虐待通告が入った場合、センターから委託業者に連絡を取り、委託を受けた「子育て見守り訪問員」が2人体制で、家庭訪問を行い、児童を直接目視することにより、安全確認を行った。また、育児に困難を訴える保護者を相談機関に繋いだ。			
【27年度実績】 ・実訪問世帯数 186件 ・延べ訪問件数 340件 児童を直接目視できた割合 37.6%			

事業費 (千円)	年度	26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額
	歳出合計	13,945	14,163	14,163
	歳入			
	特定財源	3,757	3,757	4,052
	一般財源	10,188	10,406	10,111

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実 績		目 標	
		26年度	27年度	28年度	最終年度
活動の指標	訪問して児童を直接目視確認ができた割合	目標	70.0%	70.0%	70%
		実績	39.3%	37.6%	
		達成率	56.1%	53.7%	
		目標			
(成果の指標)	子育て環境満足度	目標	65.0%	65.0%	65%
		実績	60.4%	64.3%	
		達成率	92.9%	98.9%	
		目標			

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

